

校長室から SEASON4 NO.39 R4.9.7



JAみのり広報誌MINORIには、甲子園出場にかかるお米の寄贈と高級牛丼の開発に向けて本校生活科学科生徒が特産開発センターを訪問し、牛肉やどんぶりについての学習をしたことが掲載されました。また、いつものレシピのページには3年中川さんと有延さん考案の「ぶどうたっぷり米粉のシフォンロール」が掲載。写真もおいしさを引き立たせてくれています。今が旬のぶどうです。一度試してみてください。

9月4日は、サッカー部の試合が本校で行われました。東播地区リーグ戦において優勝し、県リーグ参入戦に進み、1回戦は勝利して迎えた2回戦です。神戸科学技術高校と対戦しました。総体で悔しい思いをしてただけに選手権にかける思いは強く、夏季休業中も県外の強豪校と対戦し、技術、精神面を磨いてきたその成果が問われる試合が続きます。前半を0-0で折り返した後半

開始早々にマークが甘くなつたところから得点を決められ、その数分後にも得点を奪われるなど、バランスが崩れたところを攻められ、0-2とリードを許しました。そこからの流れは攻撃的になり、1点を返したのですが、及ばず1-2で敗戦。悔しい負けとなりました。今回のゲームを糧にこれから始まる選手権予選に向けて仕上げてください。声もよく出ていてまとまりを感じましたので期待できると思います。

9月3日神戸新聞夕刊1面に社高校校長として取り上げていただきました。とてもよい文章でまとめていただきました。また最初に甲子園出場を決めたときの野球部の選手たちの充実感あふれる写真を掲載していただきお陰で「思い」の大切さは伝わったと思っています。個人的なことをいえば、取材をしてきた記者は高校時代私が担任をしており、私が高校でどのような指導をしていたかもよく知っている記者です。またもう一人の方も阪神淡路大震災前後に陸上競技の指導を通じて知り合った方で、震災当時の生徒たちの頑張りを見届けてくれた方でしたので、取材というよりは懐かしい話をしながら、今回の社高校の生徒の頑張りを取り上げていただいているという感じでした。生徒は勿論、保護者、職場の職員、地域の皆様等私に関わっていただいた方々との出会いがあったからこそ、このようなことができたわけで、本当に感謝の気持ちで一杯です。「チャンスが来たときにそのチャンスを活かすにはいつもそのチャンスが来ることを想定して準備しておかねばならない」と先日の始業式でも話しましたが、そのことを心がけてきた結果だと思います。たまたま今回そのチャンスをものにでき、野球部の甲子園出場や陸上部の全国優勝等生徒たちの活躍の場を見ることができたと思っています。各部の応援にはすべて行けていないのですが、「自分のできる事をする」ということで今後できる限り回って、生徒たちの頑張っている姿を見ながら、面談も進めていき、少しでも生徒たちの考えていることを理解しながら物事を進めていきたいと考えています。今回、甲子園出場に際して加東市をはじめ様々なところからご支援、ご声援をいただき、本校への関心の高さを感じました。その期待に応えられる生徒を育していくためにはできるだけ多くの職員が生徒に関わりを持ち、社会に貢献できる人材育成をしていかねばならないと思っています。学校全体で情報共有をしっかりととはかり、生徒たちが生き活きと学校に通えるようにしていきます。今後ともよろしくお願ひいたします。

9月も中旬になります。新型コロナは少し落ち着きを見せ始めたようですが、気を緩めず、個人ができる感染防止対策をしっかりととり、学校生活を送りましょう。体育大会では3年ぶりに応援合戦等以前のスタイルでできるよう取組を進めています。保護者の皆様にも見ていただけるよう準備中です。みんなで協力して行事をできるようにしていきましょう。よろしくお願ひします。

